

# 令和7年度 病害虫発生予察注意報 第1号

令和7年7月9日  
千葉県農林総合研究センター長

## 大型斑点米カメムシ類、カスミカメムシ類による斑点米発生に注意

### 1 注意報の内容

- (1) 対象作物及び病害虫名：水稲、大型斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、イネカメムシ等）及びカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ等）
- (2) 発生地域：県内全域
- (3) 発生量：多

### 2 注意報発令の根拠

- (1) 6月下旬から7月上旬に行った県内70地点の水田周辺の雑草地すくい取り調査において、大型斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数は13.46頭（1地点当たり20回振りすくい取り（以下同じ）；平年2.49頭）と過去10年と比較して最も多かった（図1）。また、地域別に見ると、全ての地域で平年より多く捕獲された（図2）。
- (2) 同調査において、カスミカメムシ類の平均捕獲虫数は89.54頭（平年29.07頭）と過去10年と比較して最も多かった（図3）。また、地域別に見ると、長生地域以外で平年より多く捕獲された（図4）。
- (3) 7月3日に発表された気象庁の1か月予報（関東甲信地方）によると、向こう1か月間の気温は高いと予報されている。このため、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動の活発化に注意する必要がある。
- (4) 「コシヒカリ」や「粒すけ」等の晩生品種は、これから出穂期を迎えるため、後述の防除対策を参考に適期に防除する。

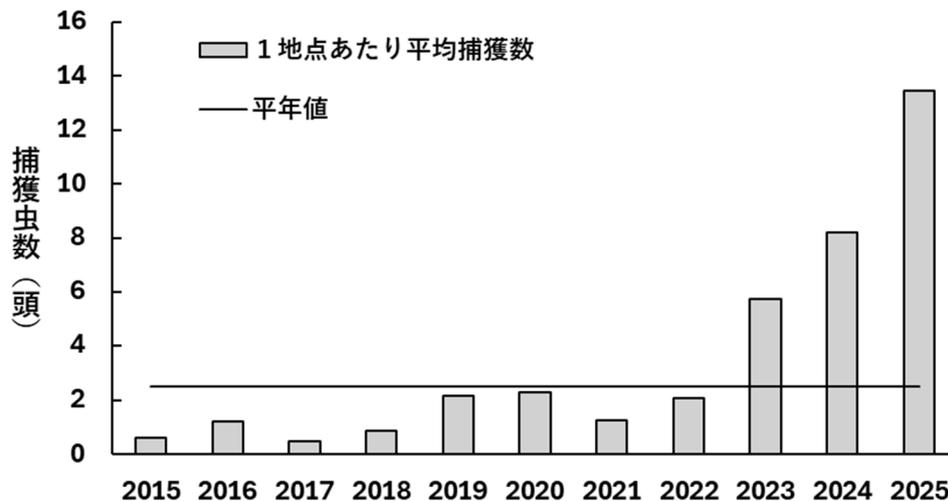


図1 水田雑草地における大型斑点米カメムシ類の年次別捕獲頭数（6月下旬～7月上旬）

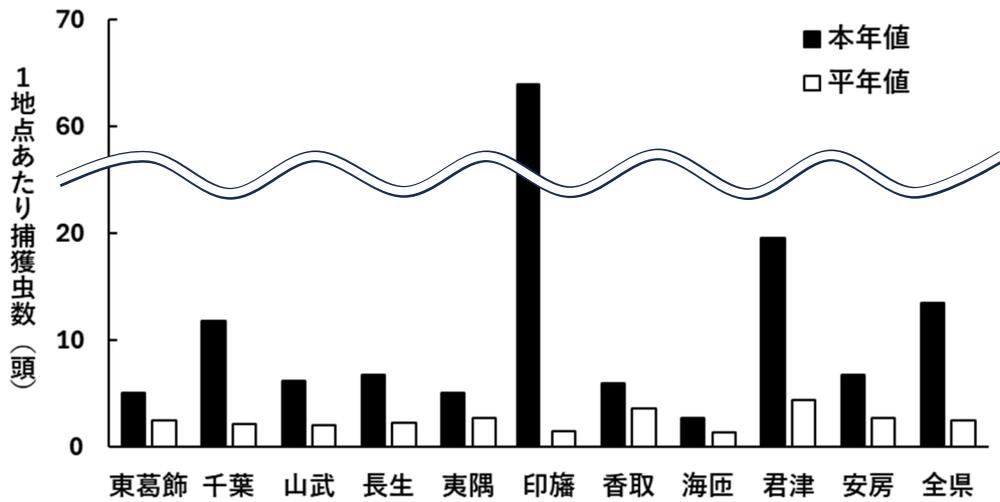


図2 水田雑草地における大型斑点米カメムシ類の今年の地域別捕獲頭数（6月下旬～7月上旬）

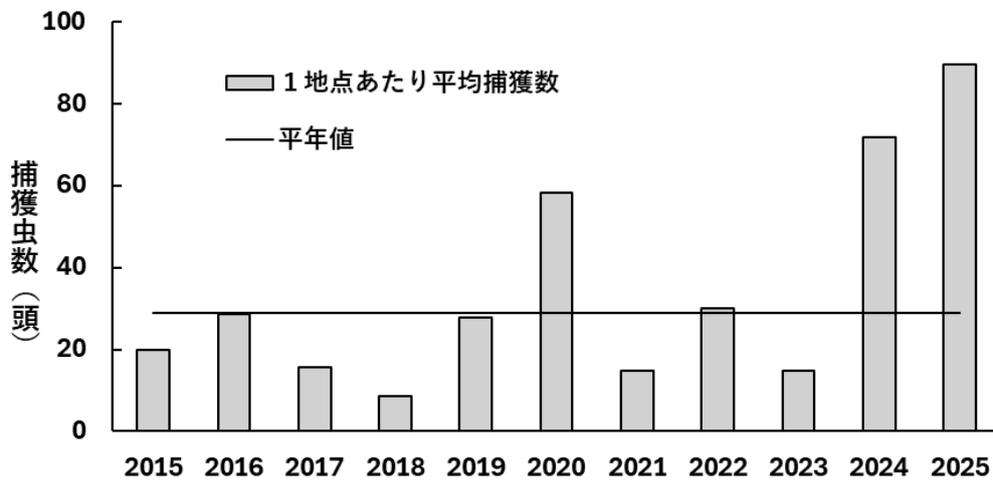


図3 水田雑草地におけるカスミカメムシ類の年次別捕獲頭数（6月下旬～7月上旬）

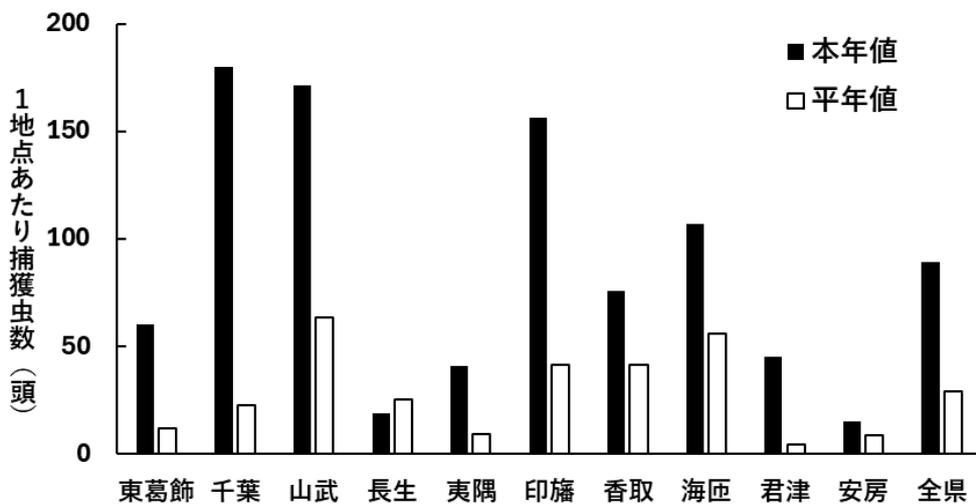


図4 水田雑草地におけるカスミカメムシ類の今年の地域別捕獲頭数（6月下旬～7月上旬）



写真1 大型斑点米カメムシ類  
(クモヘリカメムシ成虫)



写真2 カスミカメムシ類  
(アカスジカスミカメ成虫)



写真3 斑点米

### 3 防除対策

- (1) 大型斑点米カメムシ類はほ場内、カスミカメムシ類は水田周辺の雑草地を中心に、発生状況を確認し、防除の要否を判断する。
- (2) 大型斑点米カメムシ類の中でも、イネカメムシは防除適期が異なるので、令和7年病害虫発生予察情報第3号P3「これから注意を要する病害虫」を参考にするとともに、「でるた」を活用して適期に防除を行う（下記QRコード）。本種による不稔被害を防止する場合は、成虫が侵入する「出穂始め～出穂期」に薬剤散布を行う。追加で防除する場合は、「出穂期15日後」に薬剤散布を行う。



令和7年病害虫発生予察情報第3号P3  
「これから注意を要する病害虫：イネカメムシ」



水稻生育予測システム「でるた」

- (3) ほ場・雑草地で斑点米カメムシ類が多発している場合は、表を参考に薬剤防除する。
- (4) イネカメムシを除く、大型斑点米カメムシ類は、飛来成虫よりも孵化幼虫による被害が大きく、乳熟期以降に吸汁し斑点米を発生させる。そのため、防除適期は「穂揃期（出穂期<sup>※1</sup>3日後）」と「乳熟期（出穂期15日後）」の2回である。
- (5) カスミカメムシ類は、水稻が出穂すると水田周辺の雑草地から水田に侵入し、出穂後7～14日に侵入数が最大となり、乳熟期以降の吸汁によって斑点米が発生する。そのため、防除適期は「穂揃期（出穂期3日後）」と「穂揃期7～14日後」の2回である。また、カスミカメムシ類は割れ糲が発生すると、糲開口部から加害するため、「あきたこまち」等、割れ糲の発生しやすい品種では注意する。

※1 出穂期とは、4～5割の穂が出穂した時期である。

#### 4 注意事項

- (1) 周辺より出穂が早いか、反対に特に遅い水田では集中的に加害されやすいので注意する。
- (2) 空中散布を予定している地域では、薬剤の使用回数に注意する。
- (3) 散布に当たっては、使用時期に注意する。

表 斑点米カメムシ類に対する防除薬剤（令和7年7月1日現在）

I R A C コード※2	薬剤名	希釈倍数・ 使用量	使用時期	使用回数 ※3
1 B	スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 21 日前まで	2 回以内
2 B	キラップフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
	キラップ粒剤	3 kg/10 a		
3 A	トレボン乳剤	2,000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内
4 A	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
	スタークル液剤 10	1,000 倍		

※2 I R A Cコード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

※3 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

- ・病虫害発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・県内で栽培される主要な農作物に発生する病虫害や雑草を  
防除するための指針が千葉県 HP で公開されています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

**千葉県農林総合研究センター病虫害防除課**

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

